

# 環境安全衛生品質マネジメントシステム

CSR理念とレスポンシブル・ケア<sup>\*1</sup>精神のもと、日本化薬グループは環境保全、安全衛生の確保および品質保証の維持・向上に努めるため、「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」を採択し、組織的な活動を行っています。

## 環境と安全と品質に関する私たちの宣言

平成7年11月7日 制定

私たちは、「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える製品と技術で人類に貢献しつづける会社」を目指し、努力を重ねています。

私たちの活動は、人々の健康や安全、或いは財産をおびやかしたり、環境を破壊することがあってはなりません。私たちは、良き企業市民であることを自覚して、次代に健全な環境を引き継ぎ、お客様に信頼され、喜んで受け入れていただける製品を提供するため、次の基本方針によって行動します。

### 基本方針

1. 私たちは、製品の研究・開発から生産・販売を経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体にわたり、環境・健康・安全に与える影響を評価し、十分な配慮を行います。
2. 私たちは、品質に責任を持ち、お客様が満足される製品の開発と改善に努めます。
3. 私たちは、環境保全・安全衛生・製品品質に関する意識を高め、無公害・無事故・無災害および製品安全の達成に努めます。
4. 私たちは、製品の安全な使用と取り扱いについての必要な情報をお客様に積極的に提供します。
5. 私たちは、環境保全に寄与するため、省資源・省エネルギーをなお一層推進します。
6. 私たちは、環境保全に対しても積極的に技術の開発を行い、その応用に努めます。
7. 私たちは、製品や操業に関して、市民の方々や行政当局の正しい理解が得られるようコミュニケーションを深めることに努めます。

平成15年9月1日

日本化薬株式会社 代表取締役社長

鳥田 紘一郎

<sup>\*1</sup> レスポンシブル・ケア：Responsible Care。化学物質を製造または扱う企業が化学物質の開発、生産、販売、消費から廃棄にいたるまでのすべての過程において、自ら積極的に「環境」「安全」「衛生」面に配慮した対策を行う活動。1985年にカナダで誕生した後、世界に拡がり現在では40数カ国で実施されている

## 全社における管理体制

### ■ 環境・安全・品質保証経営委員会

社長を委員長とし、専務、常務、事業本部長および生産技術本部長により構成された全社的な委員会です。環境、安全、衛生、品質保証についての年度方針を策定し、結果を評価して改善を図っています。

#### ● 環境・安全・品質保証経営委員会事務局会議

環境・安全・品質保証経営委員会の事務局として各事業(本)部の技術部長および本社の間接部門により構成される委員会で、年度方針案および実施状況の審議を行い、環境・安全・品質保証経営委員会に答申する他、重要事項の検討を行います。

#### ● 環境安全衛生診断および品質診断

生産技術本部長をチーム長とした各診断チームを編成し、年間計画に基づいて各診断を実施しています。被診断事業(本)部および事業場は、診断での指摘事項に対して改善実施計画を作成して改善を図ります。また診断の結果は環境・安全・品質保証経営委員会に報告されます。

#### ● 安全審査

新製品の開発および製造、新しい設備の設計および設置、設備の更新、原料の変更、生産委託時に実施してリスクアセスメントなどを行い、事故を未然に防止します。

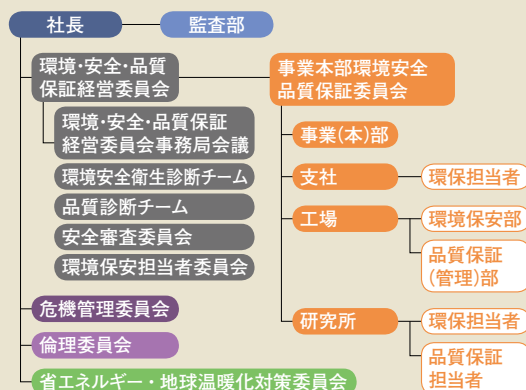
#### ● 環境保安担当者委員会

各事業場の環境保安担当者をメンバーとした環境安全推進部長が召集する委員会で、環境安全推進活動を実施するための問題点、重要事項を議論します。

#### ● 品質保証管理責任者会議

各事業(本)部・事業場の品質管理責任者をメンバーとした品質保証部長が召集する委員会で、品質保証・品質管理活動の実施状況を討議します。

## 全社における環境・安全衛生・品質組織体制

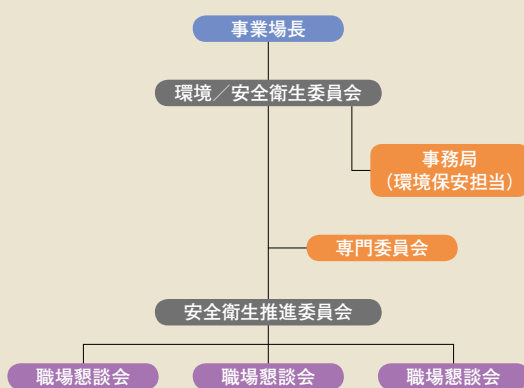


## 事業場における管理体制

各事業場では、事業場長を委員長とする安全衛生委員会または環境安全衛生委員会を組織しています。また環境／安全衛生委員会の下部組織として、事業場の各職場の代表者から組織される安全衛生推進委員会が組織されています。環境／安全衛生委員会での討議事項は安全衛生推進委員会を通して各職場の職場懇談会で全従業員に周知されます。また逆に、職場懇談会、安全衛生推進委員会で議論された内容が環境／安全衛生委員会にフィードバックされる仕組みもできあがっています。

また各事業場では、品質保証部(または品質管理部)が主導して品質(保証)委員会を定期的に開催し、各事業場で取り扱う原材料や製造される製品の顧客苦情・品質工程異常の状況確認と、その撲滅に向けて討議を行っています。新製品、改良品、既存品の品質上の課題について討議を行い、より一層の品質向上に努めています。

### 事業場における環境安全衛生組織体制



環境／安全衛生委員会(本社)

## 品質保証システム・環境管理システムの 認証取得状況およびGMPの認可状況

当社グループでは、1995年から工場を中心に品質管理の国際規格であるISO9001<sup>※2</sup>の認証取得を開始し、その後は事業部、研究部門まで含めて取得を進めています。また環境管理の国際規格であるISO14001<sup>※3</sup>についても認証取得を進めており、これまでに日本化薬単体の6工場すべてで認証を取得しました。

### 品質保証システム・環境管理システム認証取得事業場一覧

事業場名	●ISO9001 ■TS16949 <sup>※4</sup>	ISO14001
福山工場	●1995年6月	1999年4月
厚狹工場	●1995年1月	1998年9月
東京工場	●1995年6月	1998年12月*
高崎工場	●2003年7月	2000年1月
姫路工場	●2007年9月	2001年1月
鹿島工場	●1995年12月	1999年3月
機能化学品事業本部	●2001年1月	—
色材事業部	●2006年12月	—
医薬事業本部	●2003年9月	—
セイフティシステムズ事業本部	●2007年9月	—
アグロ事業部	●2003年9月	—
ボラテクノ	●1999年1月	2002年8月
日本化薬フードテクノ	●2003年11月	—
化薬化工(無錫)有限公司	●2005年7月	2006年8月
無錫先進化薬化工有限公司	●2007年4月	2007年7月
招遠先進化工有限公司	●2005年3月	—
インデットセイフティシステムズ	■2003年10月	2002年12月
ライフスパーク	■2003年7月	—

\*東京事業区(東京工場、東京事業所、機能化学品研究所、医薬研究所、色材事業部営業部市場開発グループ)として取得

### GMP<sup>※5</sup>の認可状況

事業場名	主な認可国
高崎工場	日本、アメリカ、ヨーロッパ、カナダ、ブラジル

※2 ISO9001：ISO(国際標準化機構)が発行した、設計・製造から検査・アフターサービスにいたる品質管理システムのための国際規格

※3 ISO14001：ISO(国際標準化機構)が発行した、組織の活動、製品、サービスを対象とした環境管理システムのための国際規格

※4 ISO/TS16949：国際自動車特別委員会メンバーにより全世界の自動車ユーザーに質の高い製品を提供するために共同開発された世界規格

※5 GMP：1980年に厚生省令として公布され、安心して使うことができる品質の良い医薬品、医療用具などを供給するために、製造時の管理・遵守事項を定めたもの